

# 第一・第二中学校区 適正化推進委員会たより No. 6

令和3年5月 発行  
沼津市教育委員会事務局 教育企画課  
所在地：沼津市御幸町 16-1  
TEL：055-934-4821  
E-mail：kyouiku-ki@city.numazu.lg.jp

日頃より本市の教育行政に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。  
今回のたよりでは、令和3年4月14日（水）から19日（月）の期間に実施した保護者意識調査の結果についてお伝えします。



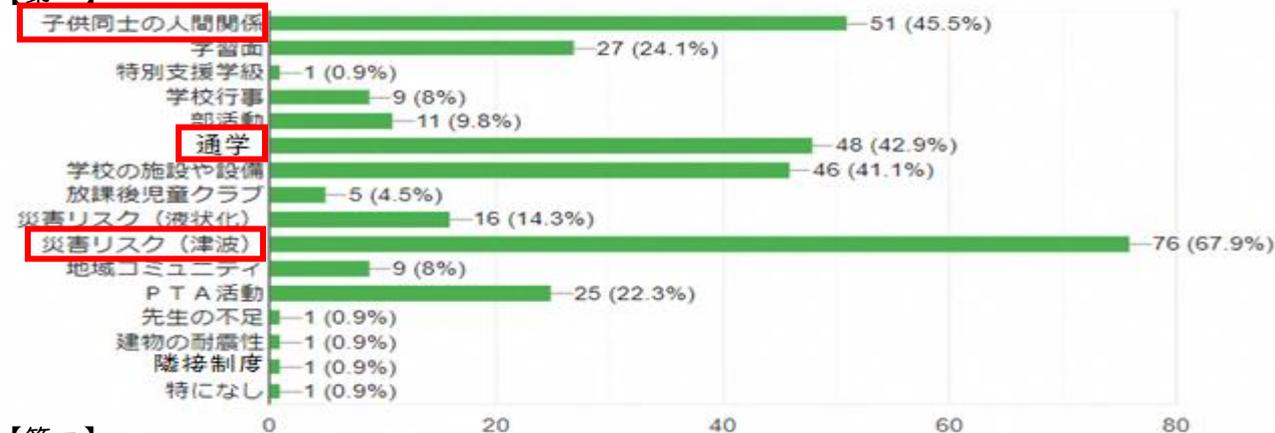
## 第一・第二中学校区学校規模・学校配置の適正化に関する意識調査を行いました。

統合に向けた様々な検討事項における協議の参考にすることを目的として、現在保護者の皆様を感じている不安について伺いました。回答率および回答は以下のとおりです。

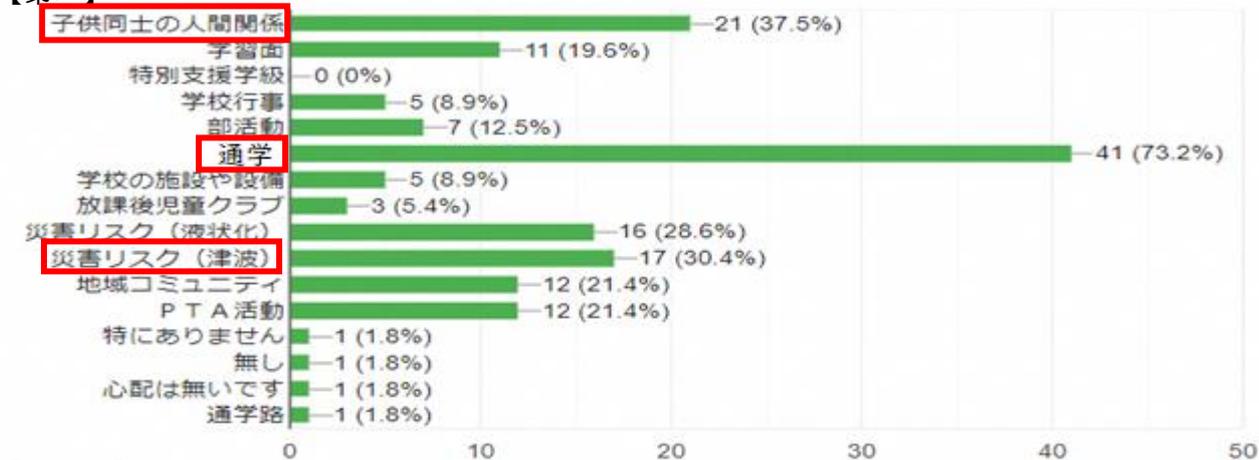
第一小学校1～6年生及び第一中学校1年生保護者(以下、第一)	44.1%(112/254人)
第二・千本小学校1～6年生及び第二中学校1年生保護者(以下、第二)	31.6%(56/177人)
第一中学校区及び第二中学校区未就学児(以下、未就学)	13.7%(31/226人)

<学校統合について心配なことを3つ程度選択してください。>

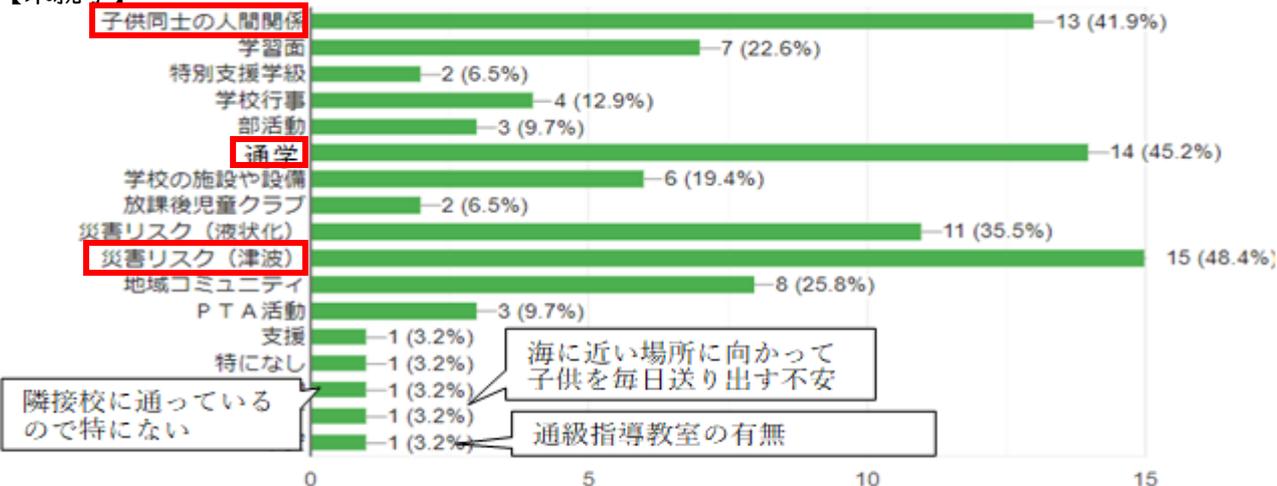
### 【第一】



### 【第二】

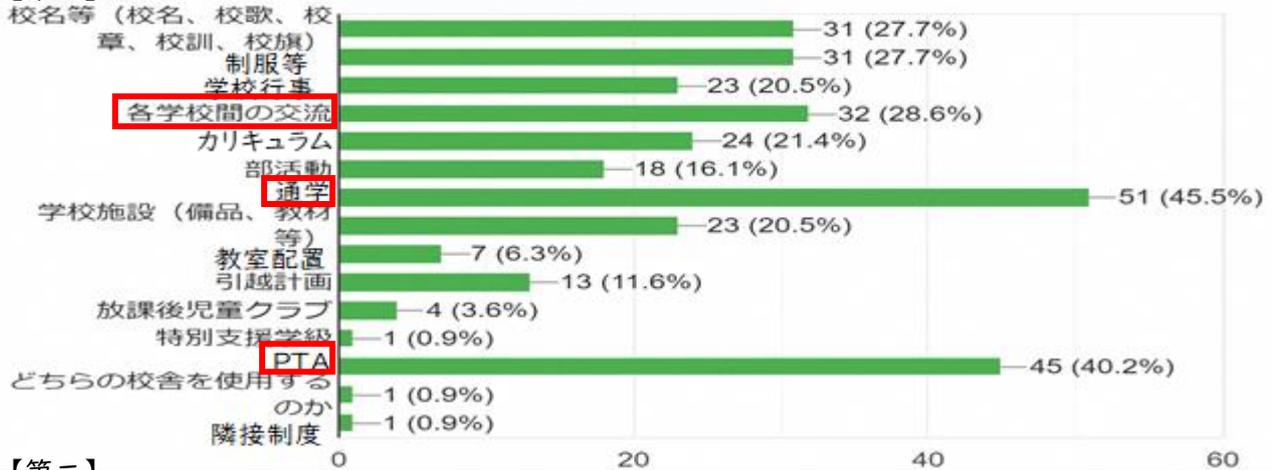


### 【未就学】

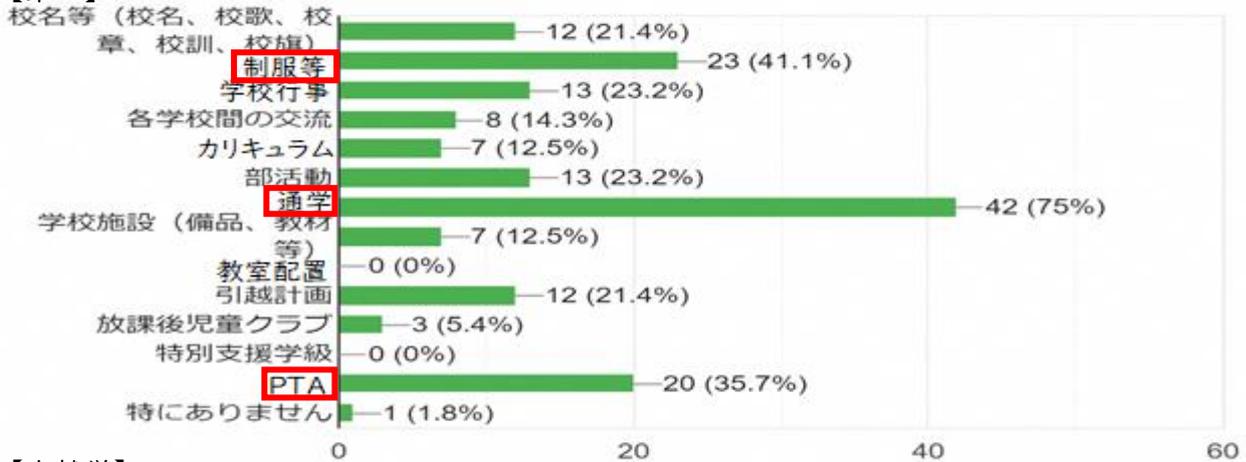


<開校までの期間において心配なことを3つ程度選択してください。>

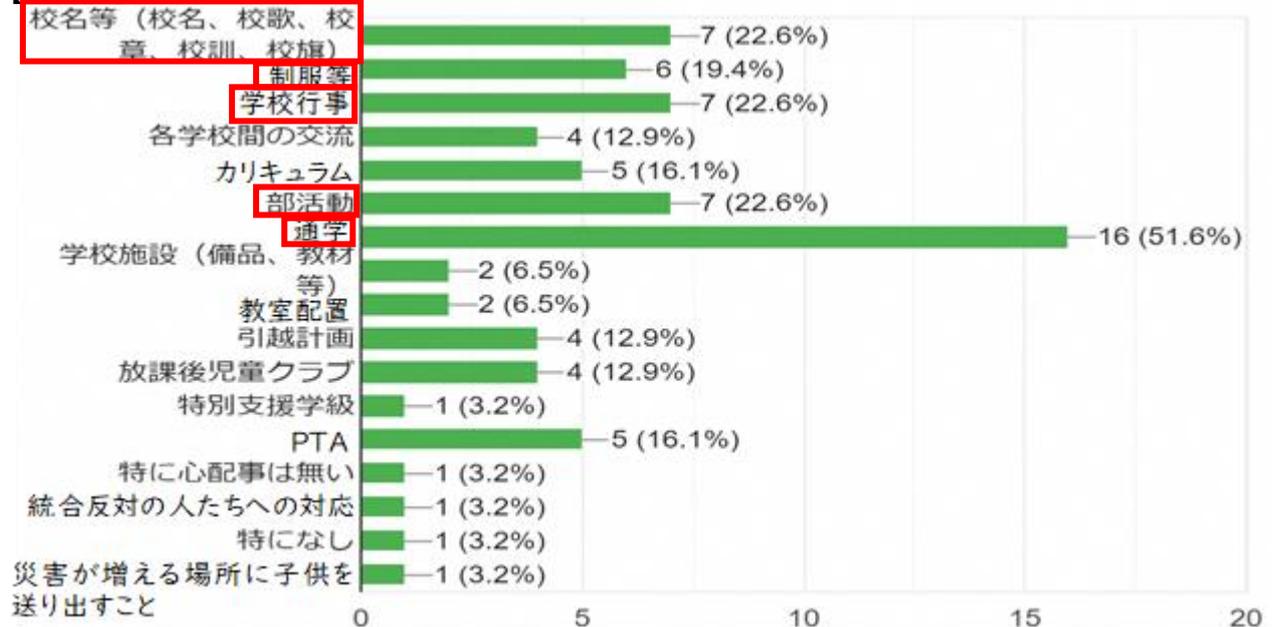
【第一】



【第二】



【未就学】



自由記述欄に寄せられた主な御意見

災害リスクについて

- ・海に近い学校へ通わせることはとても不安である。
- ・液状化については、どちらの中学校にしても影響があり、津波被害と比べるリスクではない。
- ・地震による津波が一番怖い。第一中学校は液状化の心配はあるが、命に関わることはない。
- ・津波の心配がないのなら、小学校は第一小学校、中学校は第二中学校でよいのではないかと。
- ・第二中学校は津波の浸水域ではないが、通学路に高い建物がなく心配。第一中学校は周辺の液状化が心配である。
- ・海に近い＝津波が怖いという事実に基づかない感情論は排除していただきたい。
- ・子供たちの安全安心を第一に考えて決めていただきたい。

## 通学について

- ・通学時間が増大となる地域の児童生徒について、負担軽減と安全性の確保に配慮頂きたい。
- ・通学時間が長くなると言われているが、昔は片道 40 分以上掛けて通うのが当たり前で、送迎も必要なく、遠くて嫌だと思ふものの、登下校は友達との楽しい時間だった。
- ・2.5 kmに満たない距離でも自転車通学を認めて欲しい。
- ・自転車通学が可能であれば、第一中学校でも問題ないと思う。
- ・ここ数年の猛暑を考えると熱中症になる危険があるので、通学距離は短いほうが良い。子供目線で問題視して欲しい。
- ・蓼原からの自転車通学は危険であり、バスの通学援助も全額負担して頂きたい。
- ・現状では、蛇松緑道は暗くて心配である。

## 子供のケアについて

- ・高校受験と重なる学年にとっては、勉強に集中できないなど、受験に不利になるのではないか。
- ・受験や部活（中体連）など、とても重要な時期だと思うので、本当に不安でならない。
- ・学校だけではなく行政にもメンタル面についてのサポートをお願いしたい。
- ・異なる気風の地域が一緒になるということは、なかなか難しいことだと思う。

## 統合について

- ・第一に考えるのは、これから育つ子供たちと通わせる保護者の気持ちだと思う。
- ・子供が少なくなっていく中で、統合はやむを得ない。
- ・毎年クラス替えがあったほうが良いので、人数が多いのは大歓迎である。
- ・高校以降のことを考えると、規模を大きくした学校でないと人間関係が難しくなる。
- ・2年後の統合は準備不足だと思う。
- ・期待よりも不安を抱く保護者が圧倒的多数の中、統合を実施することに疑問を感じる。
- ・いじめの原因になりそうなので統合しなくても良いと思う。
- ・新型コロナウイルスの感染が終息するかわからない中で、人数が多くなるのはすごく不安。小規模の方が安心であり、時期を考慮して頂きたい。
- ・第一中学校は海から遠く、施設も比較的新しく、校舎の設計からも生徒が学ぶ環境として適切だと思う。校舎の修繕費用の観点でも、直近 20 年で第一中の方がコストは少ない。
- ・児童生徒数に見合った先生の人数が確保できるか不安である。
- ・放課後児童クラブの受け入れ人数を増やしてもらえかが気がかりである。
- ・決定事項や検討状況等を頻繁に保護者と共有して欲しい。
- ・全体最適になる合理的な判断を期待している。
- ・既存の建物を利用しての統合であれば、「建て替えれば新しくなる」という意見は理解できない。
- ・統合することによって、子供たちがさらに母校を自慢でき、誇りを持てるような統合にして欲しい。
- ・小学校が第一小学校で統合されるなら、中学校は第二中学校にして欲しい。
- ・子供の精神面を考えると、少し遠くても多いほうの学校へ初めから入れたいと考えている。
- ・統合時、通級指導教室を作ってもらいたい。
- ・第一中学校は、第一及び第二校区の北西端にあり、どう考えても位置的に不公平感が大きい。
- ・グラウンド面積は、第二中学校の方が第一中学校の 1.5 倍あり、部活動や地域行事、不測の事態における緊急的な使用の際にもメリットは大きい。

## 意識調査への御協力及び貴重な御意見をありがとうございました。

全ての地域、どの年代の保護者におきましても、「通学」「津波の災害リスク」「子供同士の人間関係」に対する心配が大きいということが明確になりました。推進委員会たより No.5 においてもお伝えしましたが、教育行政を預かる立場として、児童生徒の保護者が感じている不安要素を解消することを最優先と考えており、この結果をもとに検討を重ねてまいります。

通学につきましても、自転車、路線バス、スクールバス等様々な角度から検討をしていきます。また、徒歩による通学につきましても、通学路の安全について協議を重ねていくことを考えています。

津波等の災害リスクにつきましても、これまで伺った保護者や適正化推進委員の御意見を踏まえ、統合時の使用施設を決定し、ソフト面についても保護者、学校、地域との連携を図りながら、安全安心な学校生活を送ることができるよう協議検討していきます。

そして子供たちの人間関係につきましても、方針を決定する 1 学期の間に学校と協議をし、開校までの期間における子供たちの交流を検討していきます。また、PTA 組織等も含めた新たな学校の運営方針についても検討することを考えています。さらに、放課後児童クラブや通級指導教室等につきましても検討を進め、安全安心に通える環境を整えていきます。今後とも御理解、御支援のほどよろしくお願いいたします。

沼津市教育委員会の「学校規模・学校配置の適正化」に関する取組はこちら⇒

